

下宿浦遺跡

地方特定道路整備事業市道桜ヶ丘横塚線道路
改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

沼田市教育委員会

序

日常生活に欠かせない生活動脈として公共道路の整備は急務となっております。沼田市内では国道17号線沼田バイパス、市道3・3・1環状線の新設工事をはじめとして、既設道路の拡幅等の改良事業が順次行われてきています。また、本市と隣接する町村を結ぶ基本的な生活道路の整備も進められてきております。

今回発掘調査いたしました沼田市東部に位置します横塚町下宿浦遺跡は、本市から隣の利根郡川場村へ抜ける道路改良工事に先立ち、記録保存のため調査されたもので、縄文時代を中心とする遺跡であることがわかりました。

最後に、調査の実施に際しまして、群馬県沼田土木事務所をはじめ関係者の皆様には多大なご指導ご協力を賜りました。あつく御礼申し上げます。また、寒暖の変化激しい季節の野外での調査に直接たずさわれた方々の労をねぎらい序といたします。

平成8年3月

沼田市教育委員会

教育長 割 田 隆 男

例 言

- 1 本書は、地方特定道路整備事業市道桜ヶ丘横塚線道路改良工事に伴い事前調査された下宿浦遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡は、群馬県沼田市横塚町字下宿浦に所在する。
- 3 調査期間は平成7年10月12日から平成7年12月12日まで行った。また、整理作業は引き続き平成8年3月まで行った。
- 4 調査は群馬県沼田土木事務所から受託した事業で、これを沼田市教育委員会が実施した。

調査主体者：沼田市教育委員会

教育長 割田隆男

事務局：教育部長 茂木脩治

社会教育課長 兼弘武久

文化財保護係長 小林栄太

同係主任 小池雅典

同係主任 宮下昌文（担当）

- 5 本書の執筆・編集、遺構・遺物の写真撮影は宮下が行った。
- 6 調査に関する記録類・出土遺物は、沼田市教育委員会（沼田市文化財調査事務所）で保管している。
- 7 発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の機関・諸氏からご指導ご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

群馬県教育委員会文化財保護課 群馬県沼田土木事務所 沼田市建設部建設課 同都市施設課
小野清蔵 株式会社カネコ 有限会社外山測量

凡 例

- 1 第1図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「沼田」を使用した。
- 2 第2図は、沼田市役所発行の沼田市都市計画図「No.3」「No.7」（縮尺2千5百分の1）を使用した。
- 3 第3図は、沼田土木事務所から提供を受けた工事計画図を加筆し、使用した。
- 4 挿図中の方位は磁北を示す。
- 5 挿図中に記載した断面基準線の数字は、海拔標高である。
- 6 遺構図の縮尺は下記のとおりである。

遺構配置図 1/120 落とし穴・土坑 1/60 掘立柱建物跡 1/80

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
報告書抄録	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と周辺の遺跡	1
III 基本層序	5
IV 調査の方法	5
V 検出された遺構と遺物	6
VI 成果と問題点	8
写真図版	

挿 図 目 次

第1図 周辺の遺跡 (S=1:25,000)	2
第2図 遺跡付近の地形 (S=1:2,500)	3
第3図 調査区配置図 (S=1:1,000)	4
第4図 A・C調査区遺構配置図 (S=1:120)	9
第5図 B調査区遺構配置図 (S=1:120)	11
第6図 D調査区遺構配置図 (S=1:120)	12
第7図 落とし穴(1) (S=1:60)	13
第8図 落とし穴(2) (S=1:60)	14
第9図 土坑(1) (S=1:60)	15
第10図 土坑(2) (S=1:60)	16
第11図 掘立柱建物跡(1) (S=1:80)	17
第12図 掘立柱建物跡(2) (S=1:80)	18

写 真 図 版 目 次

PL. 1 遺跡地遠景(西から) 調査前風景(南西から)
PL. 2 A調査区(南西から) A調査区(北東から)
PL. 3 B調査区(南西から) C調査区(北東から)
PL. 4 D調査区(南西から) D区発掘風景(南西から)
PL. 5 基本層序(D区東壁) 基本層序(C区西隅) 重機による表土掘削
PL. 6 A区1号落とし穴(西から) 同底部(南から) A区北壁縄文土器出土状態
PL. 7 A区2号落とし穴確認状態 同全景(北から) 同全景(西から)
PL. 8 B区1号落とし穴確認状態 同全景(西から) 同全景(南から)
PL. 9 D区1号落とし穴確認状態 同全景(東から) 同底部(南から)
PL. 10 A区1号土坑(北から) A区2号土坑(東から) 調査風景
PL. 11 C区1号土坑(南東から) 同発掘風景 C区2号土坑(南西から)
PL. 12 D区1号土坑土層(南西から) 同全景(南西から) D区2号土坑土層(南東から)
PL. 13 D区2号土坑全景(東から) A区1・2号掘立柱建物跡 A区3・4号掘立柱建物跡
PL. 14 出土遺物(縄文土器・石器)
PL. 15 出土遺物(古墳時代の土師器・文久永寶)
PL. 16 下宿浦遺跡から見た奈良古墳群(市史跡) 愛宕丘陵上の墳墓

報 告 書 抄 録

ふりがな		しもじゅうらいせき						
書名		下宿浦遺跡						
副書名		地方特定道路整備事業市道桜ヶ丘横塚線道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名		宮下昌文						
編集機関		沼田市教育委員会						
所在地		〒378 群馬県沼田市西倉内町780 TEL 0278-23-2111 内線 3335						
発行年月日		西暦 1996年 3月 25日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
しもじゅううら 下宿浦	ぬまたしよこづかまちあざしもじゅううら 沼田市横塚町字下宿浦	10206	—	36度 39分 36秒	139度 4分 50秒	19951012～ 19951212	1,600	道路建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下宿浦	狩猟	縄文 平安	落とし穴 土坑	4基 9基	縄文土器・石器 土師器（古墳時代） 文久永寶		台地縁辺部の狩猟場	

I 調査に至る経緯

下宿浦遺跡の発掘調査は、地方特定道路整備事業市道桜ヶ丘横塚線道路改良工事に係る埋蔵文化財緊急発掘調査事業として実施した。

市道桜ヶ丘横塚線道路改良事業は、利根郡川場村と協調し、過疎地域発展のため道路網の整備を図るもので、平成2年度から7年度を完成目標として事業着手された新設路線である。この道路は横塚町のはずれで薄根川に架橋（仮称・川場大橋）し、利根郡川場村大字生品地内の村道生品下り線と接続する計画である。

平成7年3月に、沼田市建設課（市が用地買収を担当）より埋蔵文化財の有無の照会が有り、平成7年4月20日に群馬県沼田土木事務所（道路工事を担当）、市建設課、市都市施設課、市教育委員会による現地調査を実施した。道路予定地の一部は「沼田市の遺跡」市台帳No.99の範囲に含まれていた。また昭和56年、北側に近接する工場建設の際の調査で、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒が壺や埴とともに検出されていた（沼田市横塚町・清水遺跡）。表面調査では土器の破片が数点採集されたのみであったが、当地は軽石層が厚く軽石層下の遺物は地表に現れにくい状況であり、試掘調査が必要であると判断された。沼田土木事務所からも試掘調査を実施してもらいたい旨の話があった。これを受けて平成7年7月19日～28日まで、沼田市教育委員会が試掘調査を実施した。

その結果、縄文時代の落とし穴とみられる遺構の存在が明らかとなった。その後の協議により、遺構の発見された範囲を中心に調査区を設定し、発掘調査を実施すること等が取り決められた。

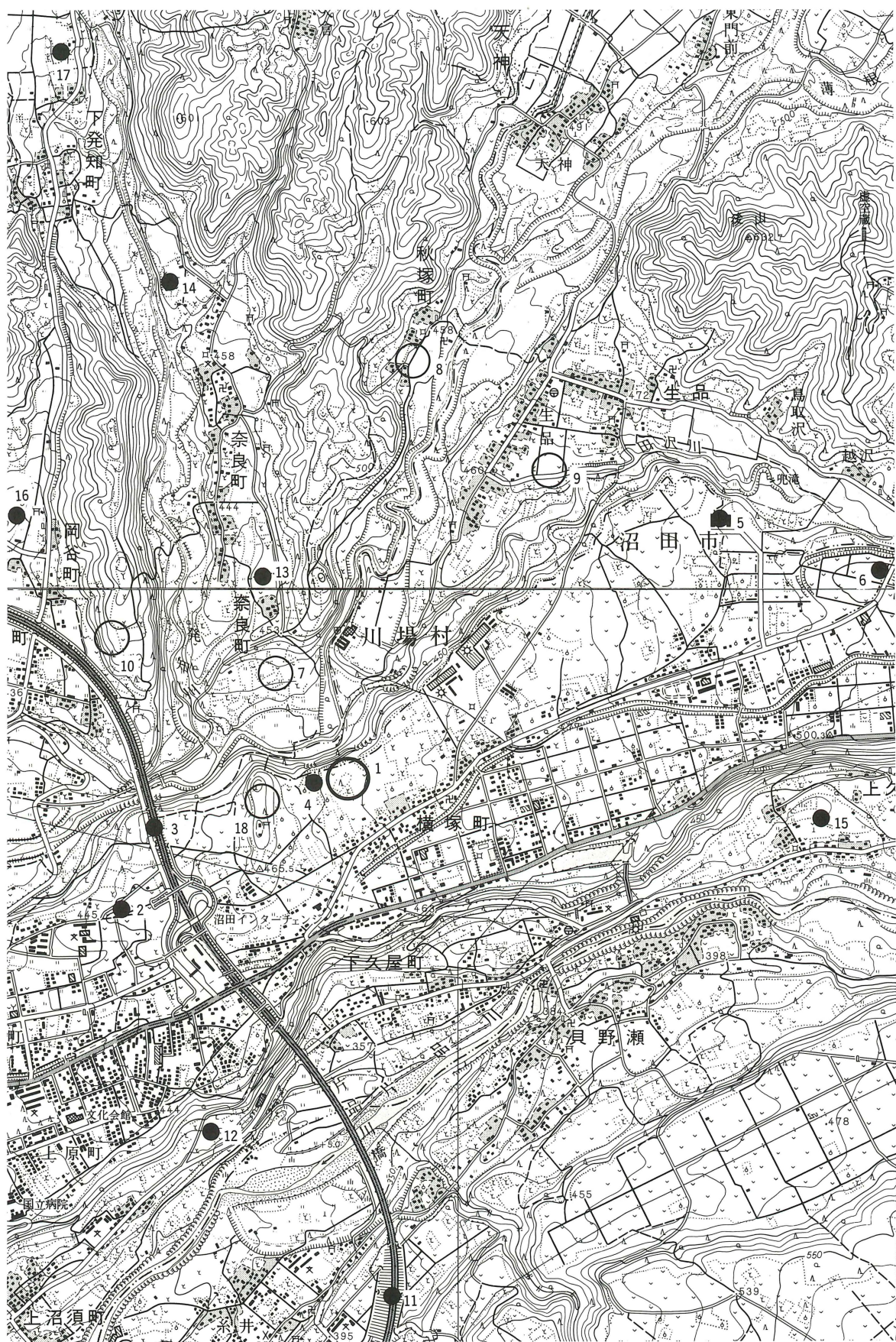
工事主体者である沼田土木事務所と沼田市との間で埋蔵文化財調査委託契約を締結し、調査を進めることになった。調査は平成7年10月12日から表土掘削に入り、平成7年12月12日に排土の埋め戻しを終了した。

II 遺跡の位置と周辺の遺跡

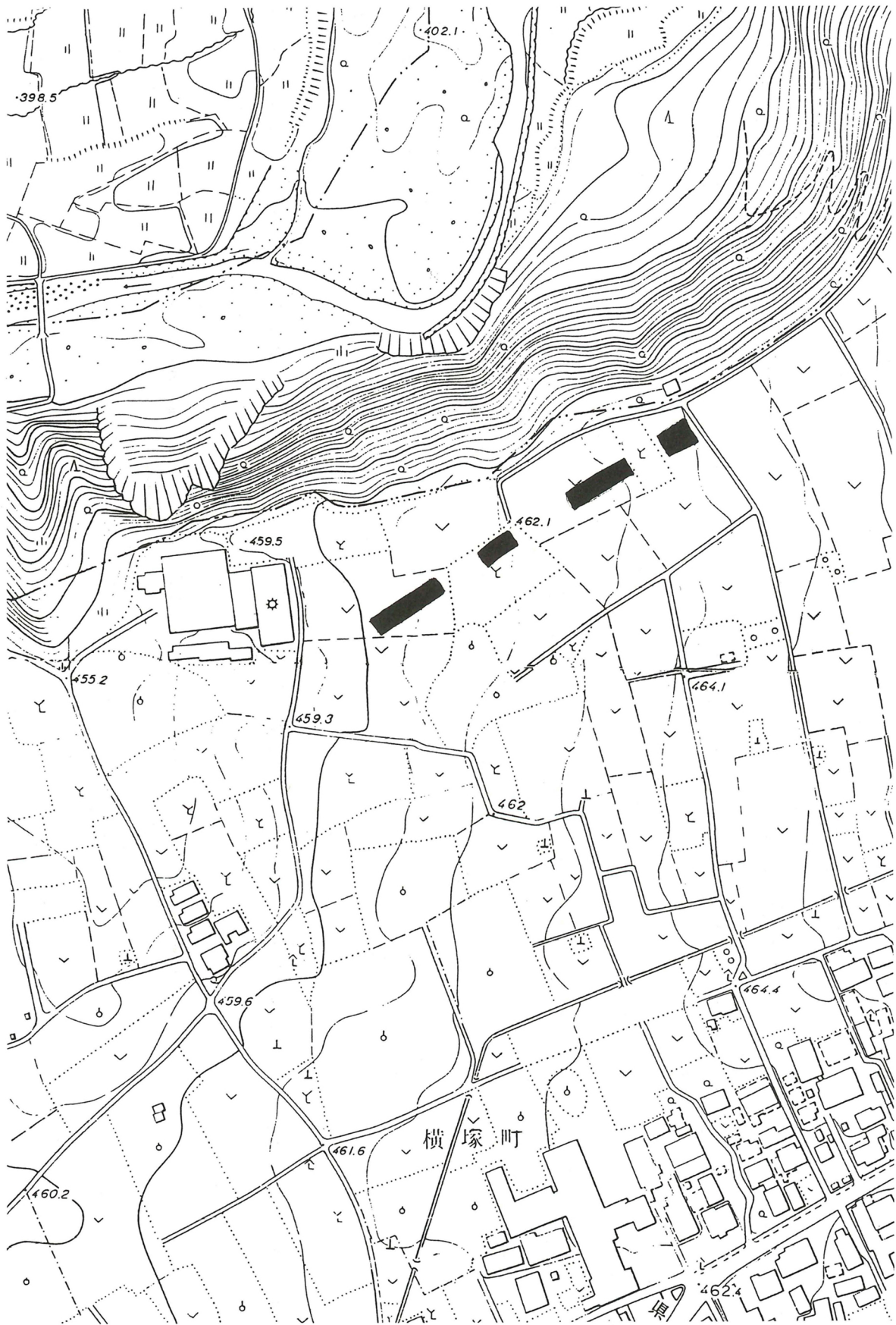
下宿浦遺跡は、沼田市横塚町字下宿浦に所在する。沼田市の東部にあたり、沼田市役所からは北東に直線で約3.5km、関越自動車道沼田インターチェンジの北東約1kmに位置する。遺跡のすぐ北側は、沼田台地の段丘崖となっており、下を流れる薄根川とは、比高差約60mを測る。段丘崖は、川の侵食が進行している場所でもあり、垂直に近い崖が切り立った状態となっている。遺跡地は、東から西方向に緩やかに下る沼田台地上に立地する。沼田台地は、周囲に展開する発達した河岸段丘の中央部に独立して位置する高台となっている。現況の表面標高460mから464mを計る。

本遺跡周辺の遺跡の分布状況は、発掘調査された遺跡だけでも、下原Ⅰ遺跡、鎌倉台遺跡、鎌倉遺跡、下宿浦遺跡、高野原遺跡等がある。縄文時代の鎌倉台遺跡の出土遺構は、落とし穴・土坑が主体であることから、狩猟地としての土地利用が主体的であったと推定される。弥生時代には、台地の縁辺部に後期の集落が営まれるようになる。鎌倉遺跡、高野原遺跡、横塚高野原遺跡など、台地崖端部からわずかに離れて立地する共通点がみられる。弥生時代の集落は隣接する利根郡川場村の平地の微高地にも分布している。古墳時代初頭には清水遺跡・高野原遺跡で集落が調査されている程度で、未解明の部分が多い。古墳時代の墳墓（古墳）は、横塚町東部から川場村の沼田台地縁辺部の地域と薄根川流域の地域に分布する。高野原遺跡では6世紀中葉といわれるHr-FP降下前の古墳群、他はHr-FPの降下後に築造された古墳群（横穴式石室を持つ円墳）が多く分布する。遺跡北側の薄根川対岸にある、奈良古墳群（沼田市指定史跡）は後者の代表的なものである。他に、秋塚古墳群、生品古墳群、天神古墳群などがある。

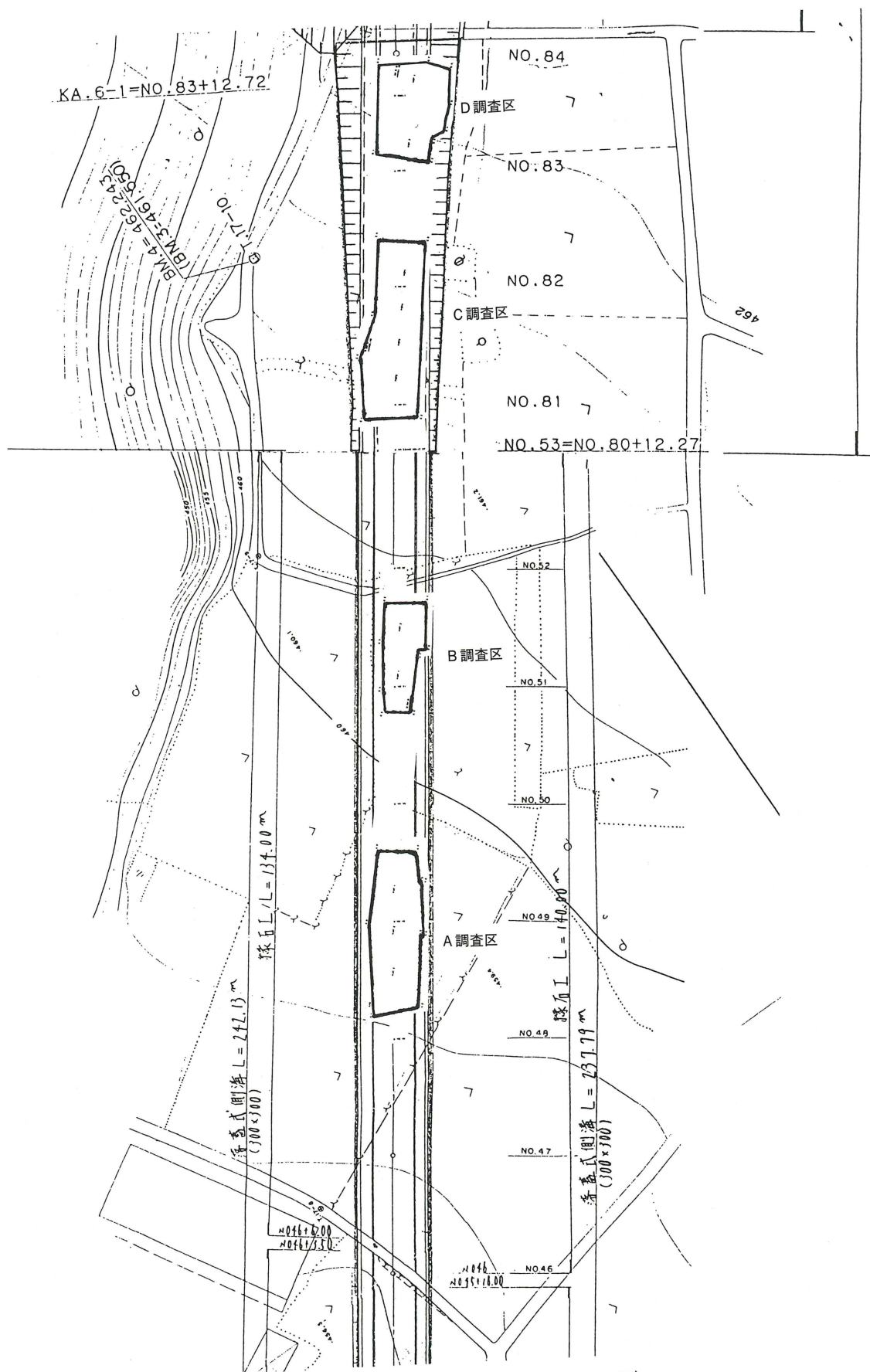
本遺跡西方の南北に延びる愛宕丘陵には、墳墓が数基構築されている。時期・性格については今のところ良くわかっていない。



第1図 周辺の遺跡 (s=1:25,000)



第2図 遺跡付近の地形 (s=1:2,500)



第3図 調査区配置図 (s=1:1,000)

番号	遺跡名	所在地	主な時代	説明	文献等
1	下宿浦	沼田市横塚町下宿浦	縄文	狩猟	平成7年調査 本書
2	鎌倉台	沼田市高橋場町鎌倉	縄文	狩猟 平成元年調査 落とし穴・土坑	「鎌倉台遺跡」沼田市埋文調査団1990
3	鎌倉	沼田市高橋場町鎌倉	縄文・弥生	弥生後期集落 縄文土器 昭和55年調査	「師B遺跡・鎌倉遺跡」群馬県埋文事業団1990
4	清水	沼田市横塚町清水	古墳初頭	集落 昭和56年調査 竪穴住居1軒	「沼田市史資料編1」沼田市1995
5	高野原	川場村生品高野原・沼田市横塚町林ノ上	弥生・古墳	集落・墳墓 昭和49年県教委調査	「門前橋詰・榊海戸遺跡・高野原遺跡」群馬県埋文事業団1989
6	横塚高野原	沼田市横塚町高野原	弥生	平成6年4月道路拡幅工事で住居2軒発見	
7	奈良古墳群	沼田市奈良町大平・八幡平	古墳	墳墓 市指定史跡	「沼田市史資料編1」沼田市1995
8	秋塚古墳群	沼田市秋塚町前原・南平	古墳	Hr—FP 降下後の古墳群（円墳）	「秋塚古墳群Ⅰ」市教委1991「同Ⅱ」1992「同Ⅲ」1994
9	生品古墳群	川場村生品	古墳	円墳で構成される群集墳	
10	峰山古墳群	沼田市岡谷町峯・諏訪	古墳	横穴式石室を持つ山寄せ古墳（円墳）群	
11	糸井宮前	昭和村糸井字大貫原・外原	縄文・古墳	縄文時代前期の拠点集落	「糸井宮前遺跡Ⅰ」群馬県埋文事業団1985「同Ⅱ」1986
12	追墓古墳	沼田市上沼須町追墓	古墳	巨大な天井石を持つ横穴式石室	「追墓古墳」沼田市教委1989
13	奈良田向	沼田市奈良町田向	弥生・平安	集落 昭和63年市教委調査	「奈良地区遺跡群（奈良田向遺跡）」沼田市教委1990
14	奈良原	沼田市奈良町原	縄・弥・平・中世	縄文前期住居8、弥生後期住居7、平安住居2、館跡	「奈良地区遺跡群（奈良原遺跡）」沼田市教委1991
15	下清水	沼田市上久屋町下清水	縄文	集落 平成3年市教委調査	
16	岡谷十二	沼田市岡谷町十二	縄・古・平	平成5年市教委調査	
17	上光寺	沼田市下発知町上光寺	縄・弥・中世	集落 平成7年市教委調査	
18	愛宕	沼田市横塚町愛宕		丘陵上に墳墓が南北方向に並ぶ	

表 周辺の遺跡

Ⅲ 基本層序（PL. 5）

本遺跡は、東から西方向に緩やかに下った地形となっている。このため、A調査区西側部分は、第Ⅱ層まで耕作がおよび第Ⅱ層がなくなっている場所もある。C調査区の西隅で深掘りトレンチを掘削し、下層の堆積状態を調査した。基本層序は以下のとおりである。

I層は暗褐色の現耕作土で Hr—FP（榛名山二ツ岳伊香保テフラ）を含む。Ⅱ層は Hr—FP 堆積層（西暦6世紀中葉・榛名山二ツ岳軽石）I'層は褐色土（FPを多量に含む）で、A区の一部で見られる。第Ⅲ層は黒色土。第Ⅳ層は黒褐色土で、縄文時代の遺物を包含している。第Ⅴ層は暗黄褐色土（ローム漸移層）、第Ⅵ層は黄褐色土（上位ローム）で硬くしまっている。第Ⅶ層は、黄褐色土で YP をまばらに含む。第Ⅷ層は明黄褐色土で、2～5mm大の軽石・微粒の黒色鉱物を多量に含む。第Ⅸ層は黄褐色軽石層。この軽石は、As—YP（浅間板鼻黄色軽石）と考えられる。第Ⅹ層より下層は灰褐色粘質土で夾雑物もない堆積であるが、地表面より3.9mの深さで5～15mm大の灰白色鉱物を若干含む地層が出現する。

Ⅳ 調査の方法

試掘調査で遺構を発見した部分を中心に調査区を設定した。道路工事予定地内での調査という制約があり、掘削土の置き場を確保するため、調査区を4ヵ所に分けて設定した。調査区の名称は、西側からA、B、C、D区と呼称した。

バックホーにより表土から第Ⅵ層上面を若干削り取るレベルまで掘削し、この面を発掘作業員がジョレンにより精査し、個々の遺構調査を行った。このレベルまで掘り下げると、遺構上面はカットされてしまうが、試掘調査時に縄文時代の遺構の確認が第Ⅴ層（ローム漸移層）のレベルでは、識別が困難であったため掘削深度をローム上面まで下げた。このため、時代の下った遺構（掘立柱建物跡等）の掘り込み面はカットされてしまい、遺構の上面の状況が確認できなかった。

V 検出された遺構と遺物

本遺跡からは、縄文時代の落し穴 4 基・土坑 9 基、Hr—FP 降下以降の掘立柱建物跡 4 棟、ピット多数が検出された。

1 落し穴

・ A 区 1 号落し穴（第 7 図、P L. 6）

A 区北西隅に位置する。遺構の約 2 分の 1 は調査区外へ伸びており完掘できなかった。調査できた範囲での遺構確認面の規模・平面形は、長軸 178cm、短軸 140cm の長楕円形を、底面の規模・平面形は、長軸 158cm、短軸 70cm の長楕円形を呈する。確認面から底面までの深さは 162cm である。底面から深さ 50cm のピット 1 基を検出した。逆茂木痕としてのピットと考えられる。ピットの検出位置から見てあと数個存在する可能性がある。底部から礫 1 点出土したほかは、堆積土から遺物は出土していない。

・ A 区 2 号落し穴（第 7 図、P L. 7）

A 区中央やや東寄りの南壁際に位置する。遺構の約 2 分の 1 以上は調査区外へ伸びており完掘できなかった。確認面の規模・平面形は、長軸 128cm、短軸 102cm の長楕円形を、底面の平面形・規模は、長軸 68cm、短軸 60cm の長楕円形を呈する。確認面から底面までの深さは 128cm である。底面からピット 1 基を検出した。深さは半分以上が調査区外のため完掘できず不明である。逆茂木痕としてのピットと考えられる。底面に近いレベルから礫が 2 点出土したほかは、堆積土から遺物は出土していない。

・ B 区 1 号落し穴（第 8 図、P L. 8）

B 区南壁の南東隅付近に位置する。遺構の約 4 分の 1 は調査区外へ伸びており完掘できなかった。確認面の規模・平面形は、長軸 166cm、短軸 130cm の長楕円形を、底面の規模・平面形は、長軸 140cm、短軸 58cm の長楕円形を呈する。確認面から底面までの深さは 135cm である。底面から深さ 56cm のピット 1 基を検出した。逆茂木痕としてのピットと考えられる。底面に近いレベルから礫が 1 点出土したほかは、堆積土から遺物は出土していない。

・ D 区 1 号落し穴（第 8 図、P L. 9）

D 区南東隅に位置する。南西側に隣接して D 区 1 号土坑が存在する。確認面の規模・平面形は、長軸 183cm、短軸 107cm の長楕円形を、底面の規模・平面形は、長軸 133cm、短軸 44cm の長楕円形を呈する。確認面から底面までの深さは 124cm である。底面から深さ cm のピット 1 基を検出した。他の落し穴のピットより浅いが、逆茂木痕としてのピットと考えられる。堆積土からは遺物は出土していない。

2 土坑

・ A 区 1 号土坑（第 9 図、P L. 10）

A 区中央やや北寄りに位置する。西 2.2m に A 区 2 号土坑が存在する。遺構確認面の規模・平面形は長軸 176cm、短軸 132cm の長楕円形、確認面から底面までの深さは 47cm である。堆積土から遺物は出土していない。

・ A 区 2 号土坑（第 9 図、P L. 10）

A区中央やや西寄りに位置する。遺構確認面の規模・平面形は長軸145cm、短軸96cmの長楕円形、確認面から底面までの深さは64cmである。堆積土から遺物は出土していない。

・ B区1号土坑（第9図）

B区北壁の西寄りに位置する。遺構の約4分の1は調査区外へ伸びており完掘できなかった。遺構確認面の規模・平面形は長軸156cm、短軸100cmの長楕円形、確認面から底面までの深さは25cmである。堆積土から遺物は出土していない。

・ B区2号土坑（第9図）

B区中央やや北東寄りに位置する。遺構確認面の規模・平面形は長軸120cm、短軸110cmの楕円形、確認面から底面までの深さは48cmである。堆積土から遺物は出土していない。

・ C区1号土坑（第9図、P L. 11）

C区中央やや北西寄りに位置する。遺構確認面の規模・平面形は長軸285cm、短軸234cmの不整形円形、確認面から底面までの深さは85cmである。堆積土から遺物は出土していない。

・ C区2号土坑（第9図、P L. 11）

C区中央やや北東寄りに位置する。道路センター杭の保護のため完掘できなかった。遺構確認面の規模・平面形は長軸160cm、短軸133cmの楕円形、確認面から底面までの深さは30cmである。堆積土から遺物は出土していない。

・ C区3号土坑（第9図）

C区北壁やや東寄りに位置する。遺構の約2分の1は調査区外へ伸びており完掘できなかった。南40cmにC区2号土坑が存在する。遺構確認面の規模・平面形は長軸214cm、短軸150cmの長楕円形、確認面から底面までの深さは40cmである。堆積土から遺物は出土していない。

・ D区1号土坑（第10図、P L. 12）

D区南東隅に位置する。北東側に隣接してD区1号落とし穴が存在する。遺構確認面の規模・平面形は長軸214cm、短軸115cmの長楕円形、確認面から底面までの深さは60cmである。堆積土から遺物は出土していない。

・ D区2号土坑（第10図、P L. 12・13）

D区中央やや北寄りに位置する。表土を掘削した時点で、黒色の円形プランの内部にローム土が円形状に確認できた。確認面の規模・平面形は長軸343cm、短軸315cmの楕円形を、確認面から底面までの深さは80cmである。堆積土からの遺物の出土はなかった。土層断面を観察すると、上層にロームの塊、掘り込み面の周囲には黒色土が堆積していた。また、規模も他の土坑より大きいことから、風倒木跡の可能性が高い。

3 縄文時代の遺物（P L. 14）

1はA区1号落とし穴の東約1.7mの北壁第IV層中で出土した。胎土に繊維を含む平底の土器で、器肉は薄くもろい。胴部外面に縄文が施文される。2・3は共にC区中央やや北寄りの第V層中より出土した。2は土器の口縁部の破片で、表面のみ縄文施文される。3は土器の胴部破片で表面のみ縄文が施文される。4はA調査区西方の道路予定地内（横塚町字清水）の表面採集資料である。石材が黒曜石の剥片である。

4 古墳時代の遺物（P L. 15）

5は土師器壺の破片である。6は地元の小野清蔵氏が、昭和49年頃畑を耕作中に土器を発見した時の写真である。表土から軽石層まで掘った時に、見つけた壺で、写真撮影後に埋め戻したとのことであった。今回見つかった土器の破片が、この土器のものかどうか即断できないが、器肉の厚さなどから考えて古墳時代の土師器壺の可能性が高い。破片は頸部及び胴部の一部と推定される。外面はヘラ削り痕、内面は指ナデ痕が残る。

5 掘立柱建物跡

4棟分の建物跡が検出された。該当するピットの堆積土は、榛名山二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)を含む黒色土である。

- ・ 1号掘立柱建物跡(第11図、P L. 13)

A区中央南寄りに位置する。一部は調査区の区域外へ延びている。3間×2間

- ・ 2号掘立柱建物跡(第11図、P L. 13)

A区中央南寄りに位置する。2間×1間。

- ・ 3号掘立柱建物跡(第12図、P L. 13)

A区西南寄りに位置する。1間×1間。

- ・ 4号掘立柱建物跡(第12図、P L. 13)

A区西南寄りに位置する。2間×1間。

6 近世の遺物(P L. 15)

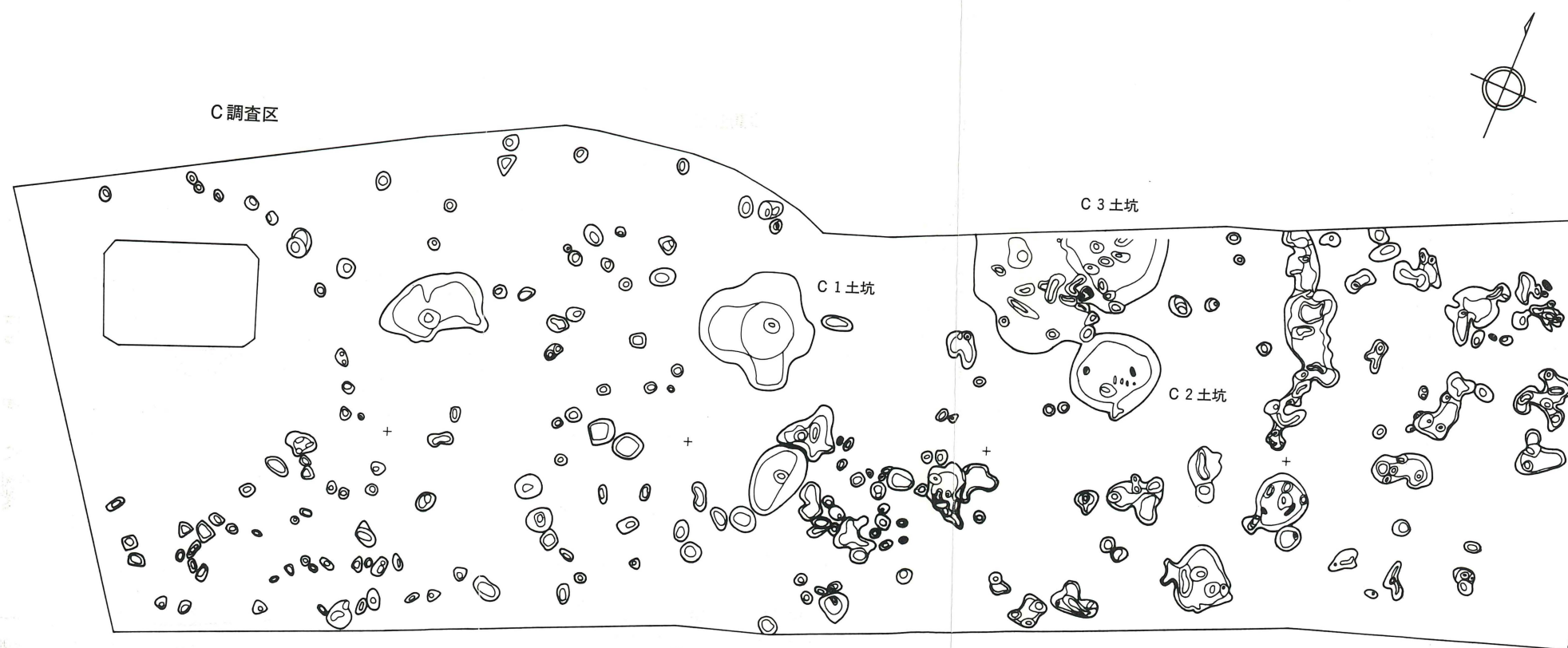
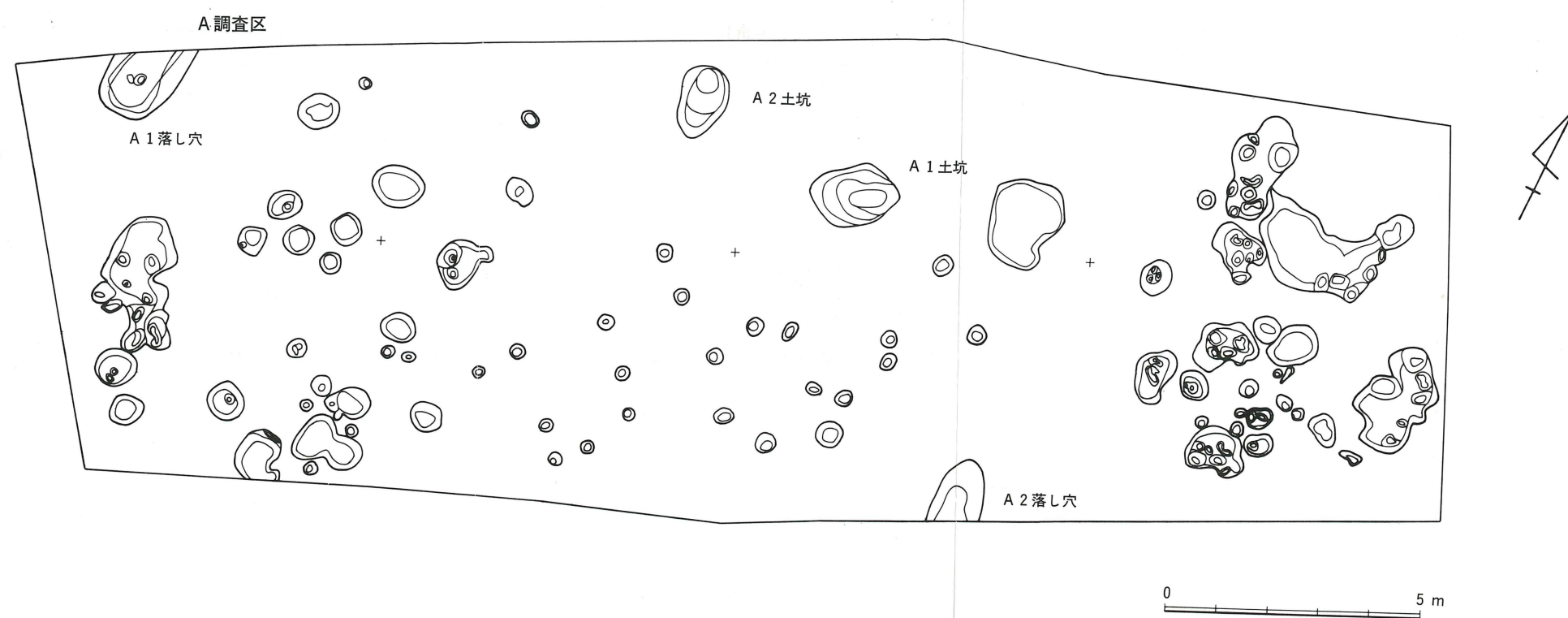
- ・ 文久永寶 C区中央付近で発見された。江戸時代末期の文久年間に鑄造された銅銭である。表面に「文久永寶」、裏面に波紋がある。第II層の軽石を除去した段階の地面上で発見した。検出状況から Hr-FP 層まで掘り下げた土坑等の掘り込みに埋められていた可能性がある。

VI 成果と問題点

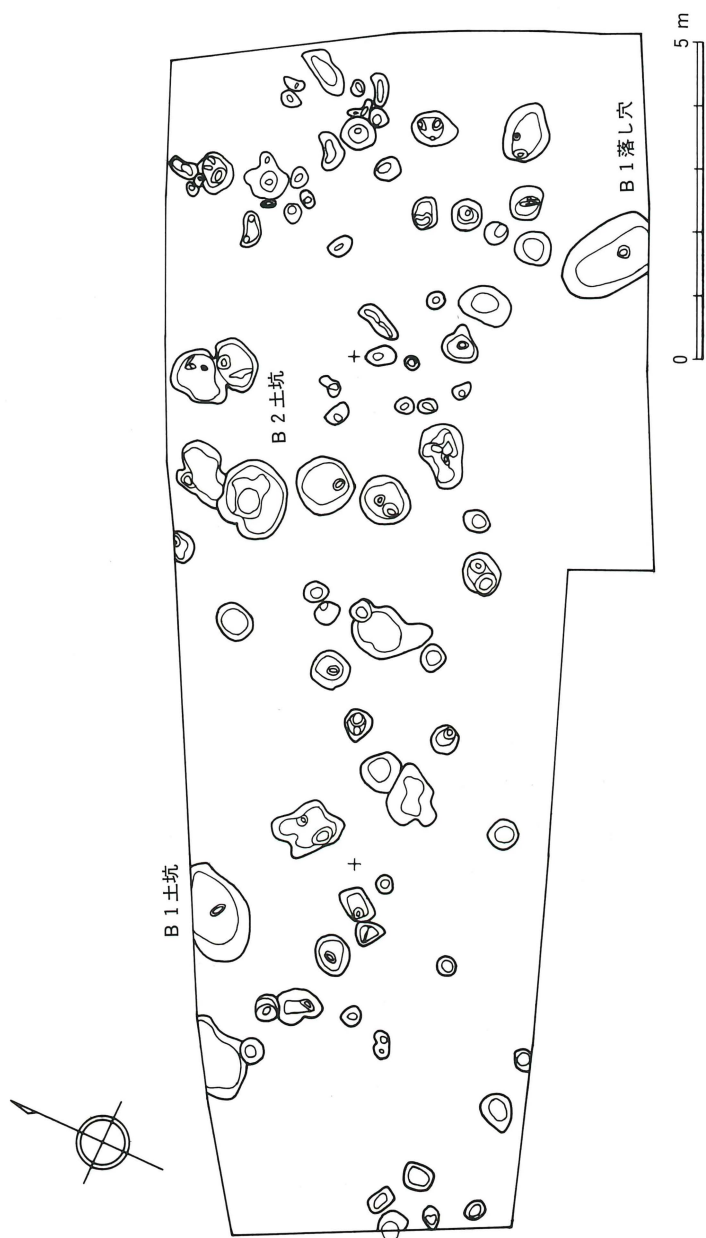
1. 沼田台地北側縁辺部の遺跡の分布について 下宿浦遺跡では縄文時代中期を主体とする遺跡であることが判明した。沼田台地縁辺の土地利用は、縄文時代では小動物の狩猟場として機能していた(鎌倉台遺跡)。弥生時代後期から古墳時代初頭にかけては集落が立地するようになる(鎌倉遺跡、清水遺跡、高野原遺跡)。古墳も地域的に片寄りがあるものの存在が確認できる。しかしながら、Hr-FP 降下以後の遺構については、確認されていない。これは後世の耕作等により攪乱が進行しているためと考えられる。

2. 対岸から見た奈良古墳群の風景 沼田市指定史跡である奈良古墳群は、その墓域として特異な立地条件にある。当遺跡の調査で、横塚町の薄根川段丘崖から北側を望むと眼下に奈良古墳群が分布しているではないか。この古墳群が奈良町字大平・龍の鼻に所在することから、この古墳群の被葬者はだれなのかという疑問になかなか答えることができなかった。実際、古墳群の一段上に位置する奈良町字田向所在の奈良田向遺跡からは弥生時代後期及び平安時代の集落跡が発見されたのみで、古墳群が築造時と同時期の遺跡は、隣接地域から発見されていない。今後はさらに新たな視点で調査していく必要性を感じた。

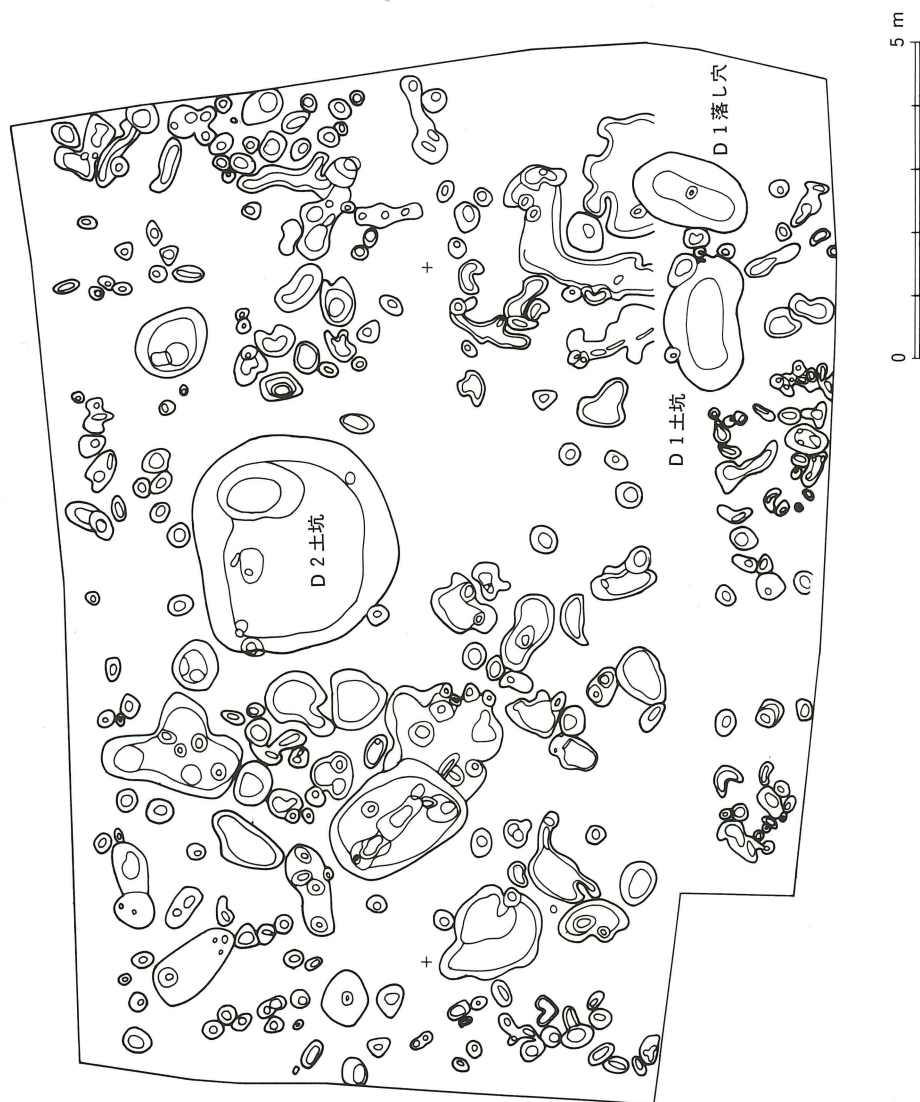
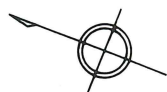
3. 近世の横塚 横塚町は、江戸時代に沼田から尾瀬を経て会津へ抜ける会津街道の宿場町(横塚新田)として機能を果たしていた。現在その名残で、字名に上宿・中宿・下宿・宿尻及び上宿浦・中宿浦・下宿浦などが存在している。遺跡地の字名は、下宿の裏(ウラ、ここでは北側)に位置することから、呼称されるようになったと推定される。



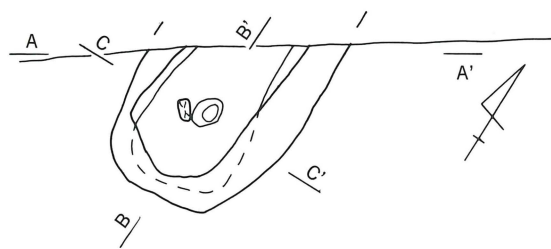
第4図 A調査区・C調査区 遺構配置図



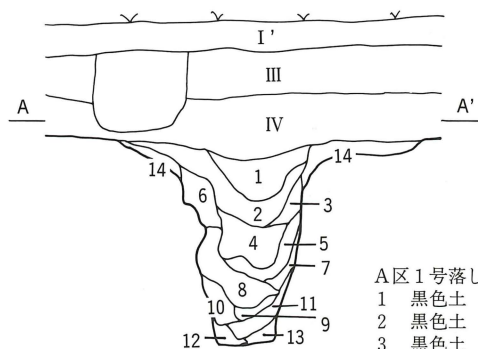
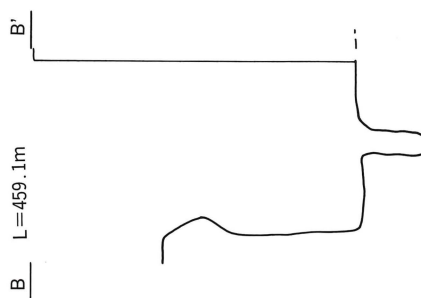
第5図 B調査区 遺構配置図



第 6 図 D 調査区 遺構配置図

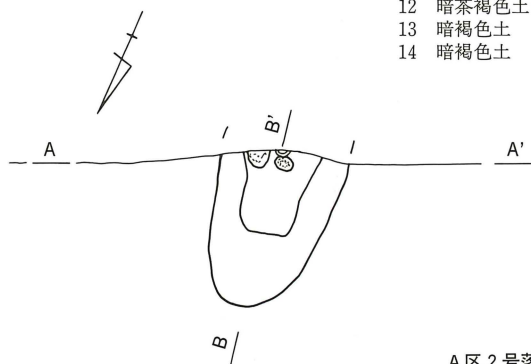
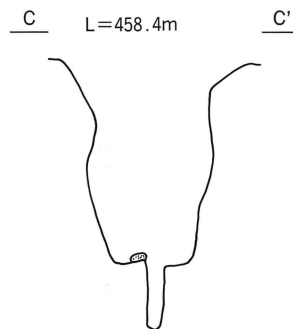


A区1号落とし穴

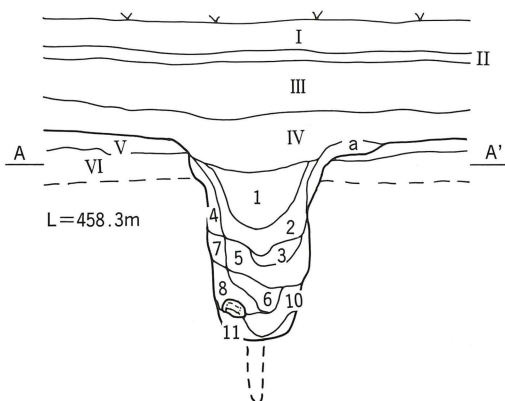
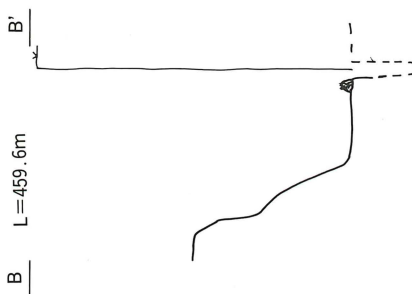


A区1号落とし穴土層註記

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 1 黒色土 | ローム粒子若干含む |
| 2 黒色土 | ローム粒子まばらに含む |
| 3 黒色土 | ロームブロック若干含む |
| 4 黒褐色土 | ローム粒子まばらに・ロームブロック若干含む |
| 5 黒褐色土 | ローム粒子・ロームブロックまばらに含む |
| 6 黒褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量に含む |
| 7 暗褐色土 | ロームブロックまばらに含む |
| 8 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量に含む |
| 9 暗黄褐色土 | ロームの崩れたもの |
| 10 茶褐色土 | ロームのかたまり |
| 11 黒褐色粘質土 | ロームブロックまばらに含む |
| 12 暗茶褐色土 | 壁土の崩れたかたまり |
| 13 暗褐色土 | 壁土の崩れたかたまり |
| 14 暗褐色土 | ローム粒子をまばらに含む |

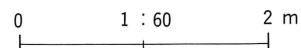


A区2号落とし穴

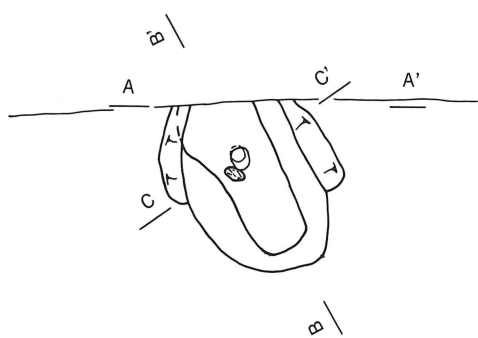


A区2号落とし穴土層註記

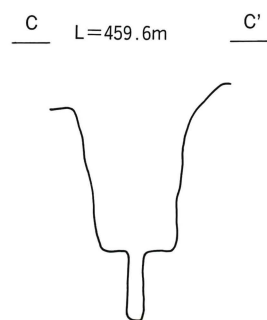
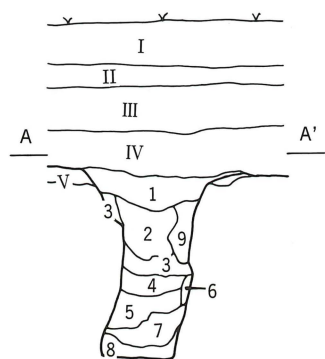
- | | |
|---------|---------------------|
| 1 黒色土 | ローム粒子わずかに含む |
| 2 黒褐色土 | ローム粒子若干含む |
| 3 暗褐色土 | ローム粒子若干含む |
| 4 暗褐色土 | ローム粒子まばらに含む |
| 5 黒褐色土 | ローム粒子・ロームブロックまばらに含む |
| 6 暗褐色土 | ローム粒子まばらに含む |
| 7 暗褐色土 | ロームブロック多量に含む |
| 8 暗黄褐色土 | ロームブロック多量に含む |
| 10 暗褐色土 | ローム粒子多量に含む |
| 11 黄褐色土 | ロームの崩れた土 |
| a 暗褐色土 | ローム粒子まばらに含む |



第7図 落とし穴(1)

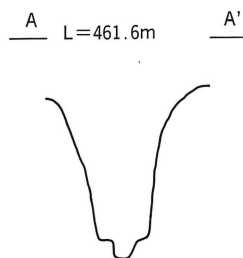


B区1号落とし穴

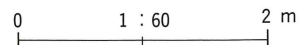
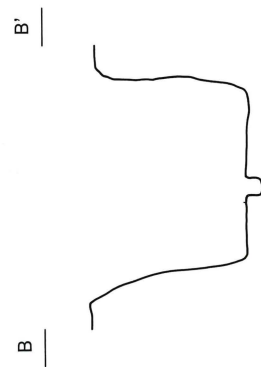
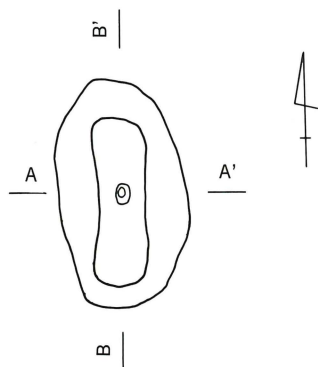


B区1号落とし穴土層註記

- | | |
|---------|---------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒子若干含む |
| 2 黒褐色土 | ローム粒子まばらに含む |
| 3 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量に含む |
| 4 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロックまばらに含む |
| 5 黒褐色土 | ローム粒子まばらに含む |
| 6 暗褐色土 | ローム粒子多量に含む |
| 7 黄褐色土 | 崩れたロームのかたまり |
| 8 赤黄褐色土 | ロームブロック（壁土）の崩れ |



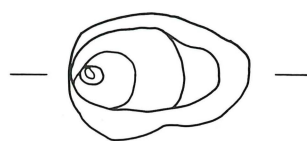
D区1号落とし穴



第8図 落とし穴（2）

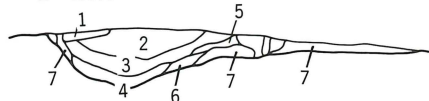


A区1号土坑



A区2号土坑

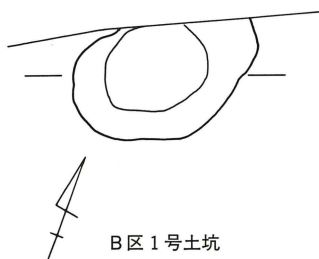
L=458.8m



A区1号土坑土層註記

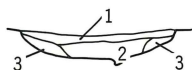
- | | | |
|---|------|---------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ロームブロック多量に含む |
| 2 | 黒色土 | |
| 3 | 黒色土 | ローム粒子若干含む |
| 4 | 黒褐色土 | ローム粒子若干含む |
| 5 | 黒褐色土 | ローム粒子まばらに含む |
| 6 | 暗褐色土 | ローム粒子若干含む |
| 7 | 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロックまばらに含む |

L=458.7m



B区1号土坑

L=459.5m



B区1号土坑土層註記

- | | | |
|---|------|----------------------|
| 1 | 黒色土 | ローム粒子若干含む |
| 2 | 黒色土 | ローム粒子まばら・ロームブロック若干含む |
| 3 | 黒褐色土 | ロームブロックまばらに含む |
| 4 | 暗褐色土 | ロームブロック多量に含む |



B区2号土坑

L=459.5m

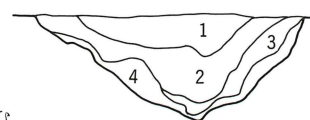


B区2号土坑土層註記

- | | | |
|---|------|---------------|
| 1 | 黒色土 | ローム粒子若干含む |
| 2 | 黒褐色土 | ロームブロックまばらに含む |
| 3 | 暗褐色土 | ロームブロック多量に含む |

C区1号土坑

L=460.7m



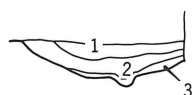
C区1号土坑土層註記

- | | | |
|---|------|---------------|
| 1 | 黒色土 | ローム粒子若干含む |
| 2 | 黒色土 | ローム粒子まばらに含む |
| 3 | 黒褐色土 | ロームブロックまばらに含む |
| 4 | 暗褐色土 | ロームブロック多量に含む |



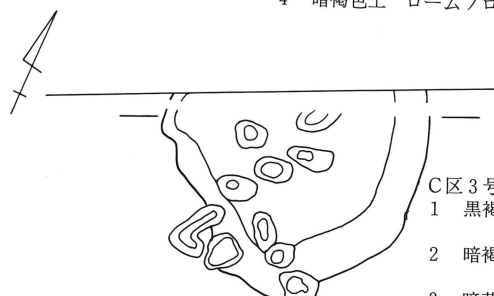
C区2号土坑

L=460.7m



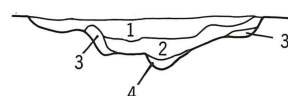
C区2号土坑土層註記

- | | | |
|---|-------|--------------------|
| 1 | 暗褐色土 | ロームブロックまばらに含む |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量に含む |
| 3 | 暗黄褐色土 | ロームブロック層 |



C区3号土坑

L=460.7m

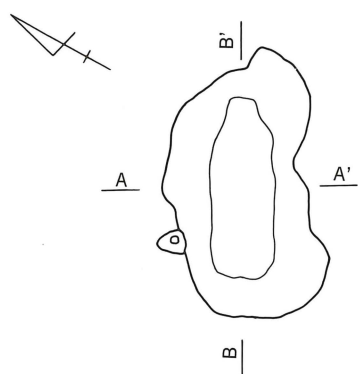


C区3号土坑土層註記

- | | | |
|---|-------|---------------|
| 1 | 黒褐色土 | ロームブロック若干含む |
| 2 | 暗褐色土 | ロームブロックまばらに含む |
| 3 | 暗黄褐色土 | ロームブロック多量に含む |
| 4 | 灰褐色土 | ロームのかたまり |

0 1 : 60 2 m

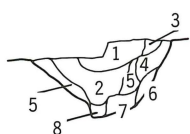
第9図 土坑(1)



D区1号土坑

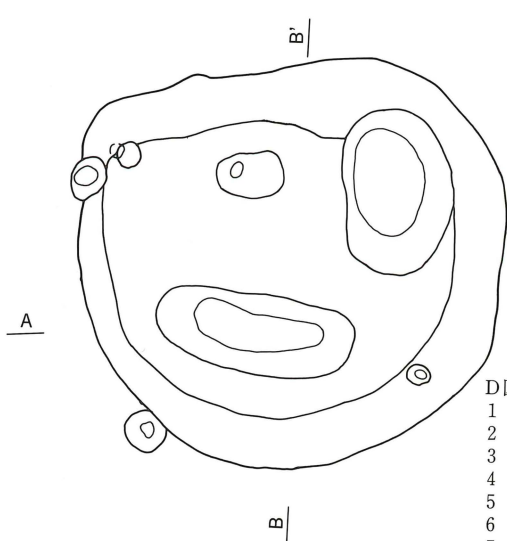


A L=461.6m A'



D区1号土坑土層註記

- | | |
|---------|---------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒子若干含む |
| 2 黒褐色土 | ローム粒子まばらに含む |
| 3 暗黄褐色土 | |
| 4 暗黄褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量に含む |
| 5 暗黄褐色土 | ローム粒子・ロームブロックまばらに含む |
| 6 黄褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量に含む |
| 7 黄褐色土 | ローム粒子若干含む |
| 8 暗黄褐色土 | 夾雑物なし |

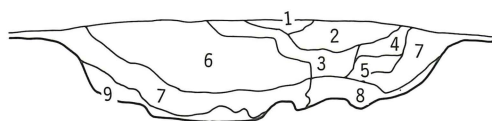


D区2号土坑

D区2号土坑土層註記

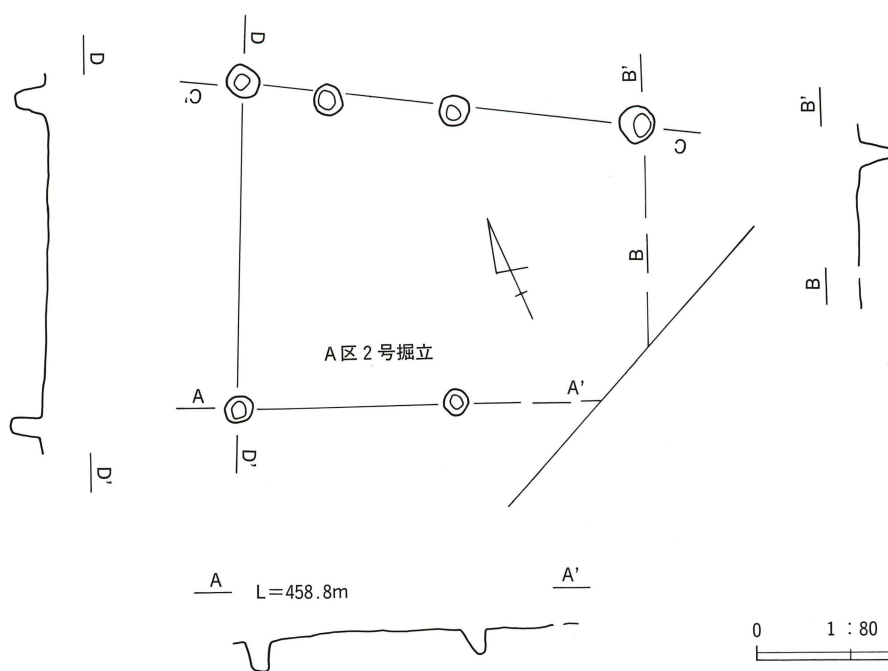
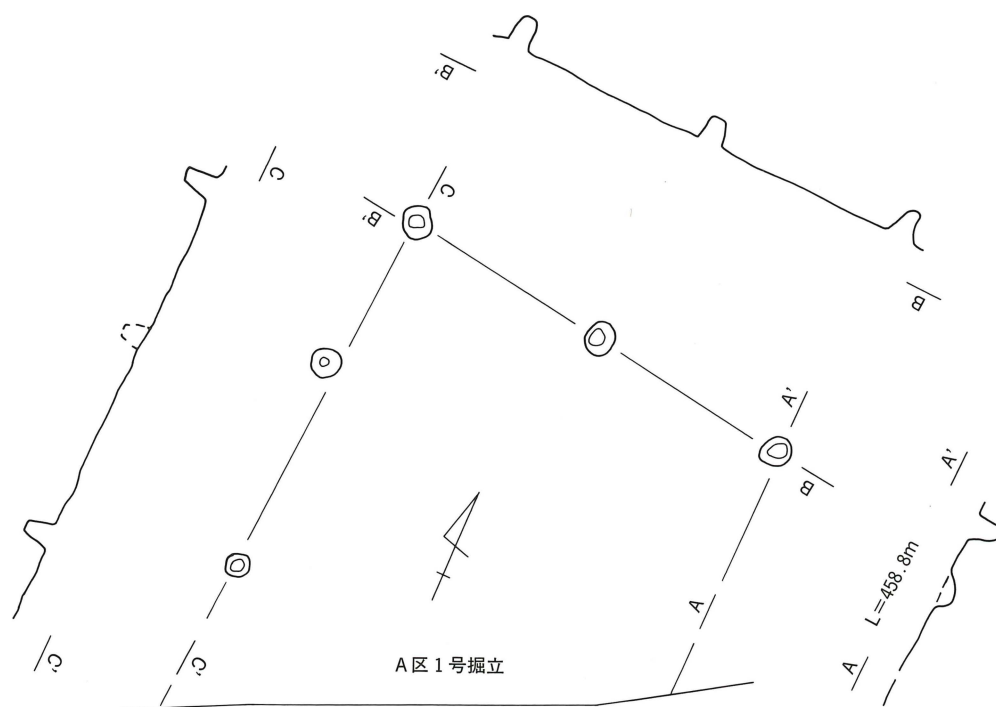
- | | |
|---------|-----------------------|
| 1 暗黄褐色土 | ローム粒子多量に含む |
| 2 黄褐色土 | ロームのかたまり |
| 3 暗褐色土 | ロームブロックまばら・ローム粒子多量に含む |
| 4 黒褐色土 | ロームブロック多量・ローム粒子まばらに含む |
| 5 黒褐色土 | ローム粒子多量・ロームブロックまばらに含む |
| 6 黄褐色土 | ロームのかたまり |
| 7 黒色土 | ローム粒子・ロームブロック若干含む |
| 8 黒褐色土 | ローム粒子・ロームブロック多量に含む |
| 9 黒色土 | ローム粒子・ロームブロック多量に含む |

A L=461.6m A'

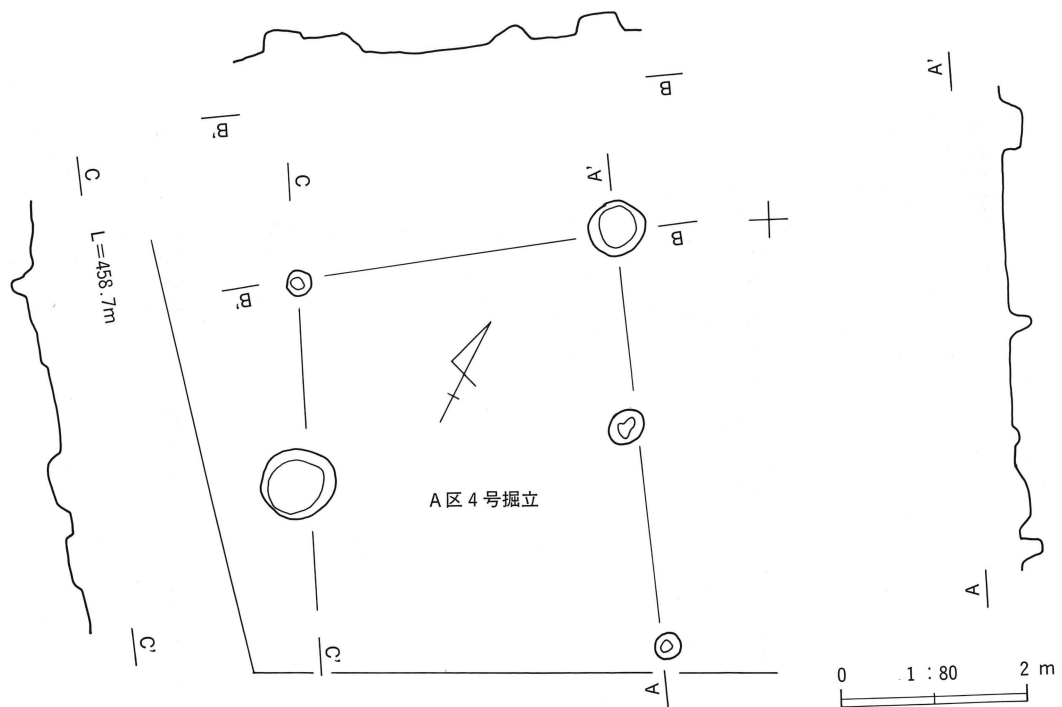
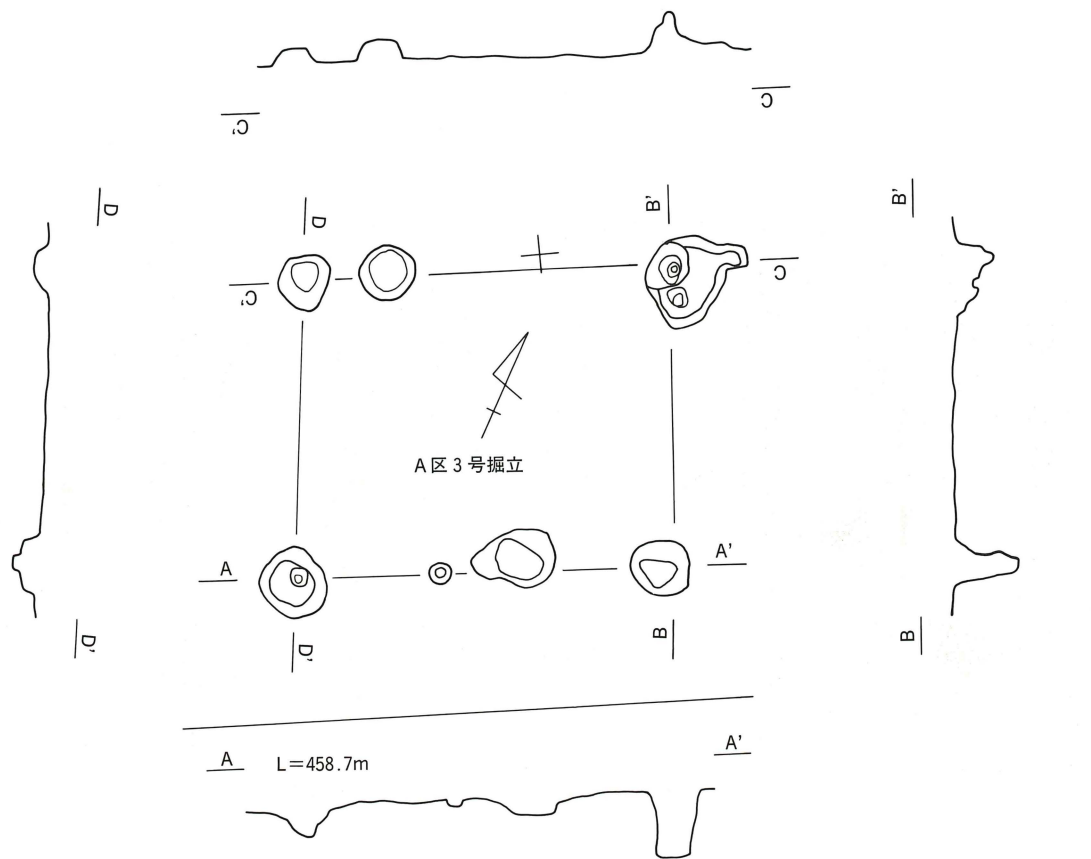


0 1 : 60 2 m

第10図 土坑 (2)



第11図 掘立柱建物跡 (1)



第12図 掘立柱建物跡 (2)



遺跡地遠景（西から）



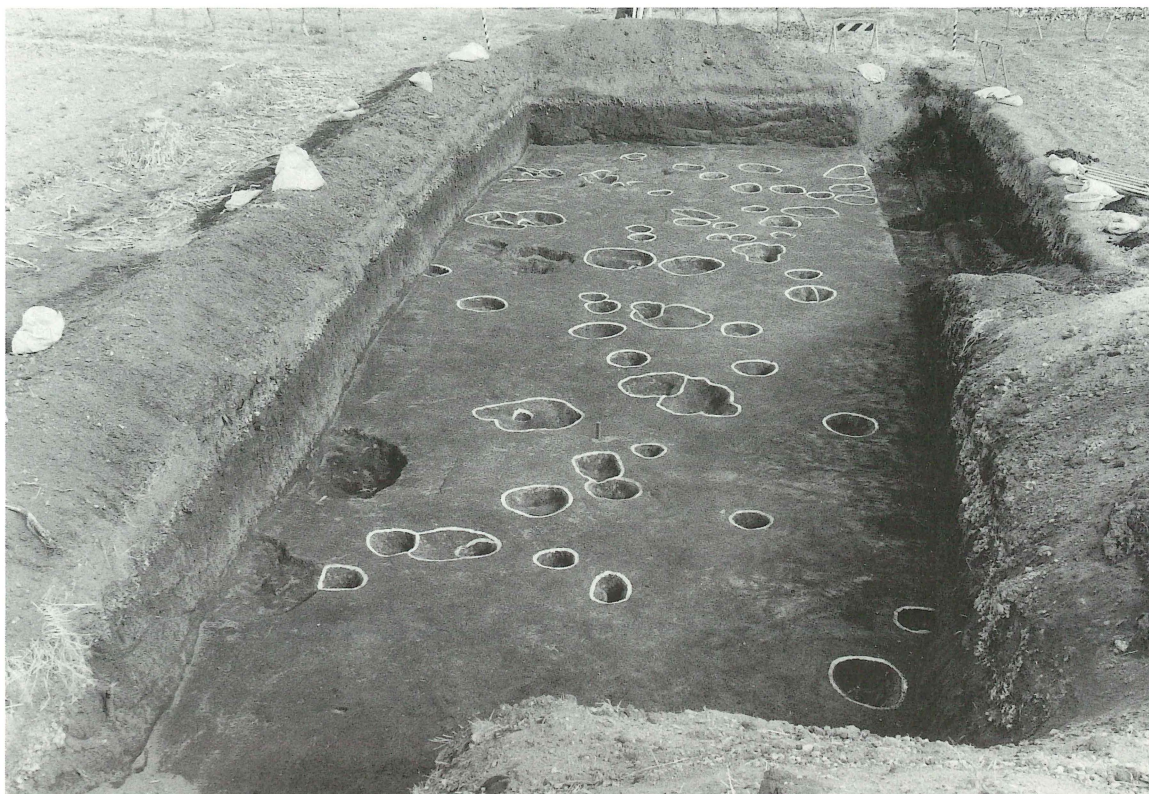
調査前風景（南西から）



A調査区（南西から）



A調査区（北東から）



B 調査区 (南西から)



C 調査区 (北東から)

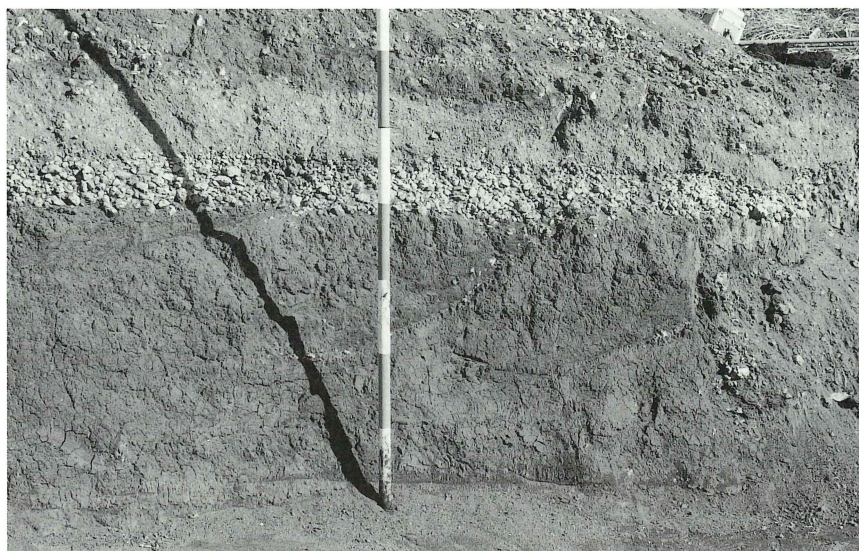


D調査区（南西から）

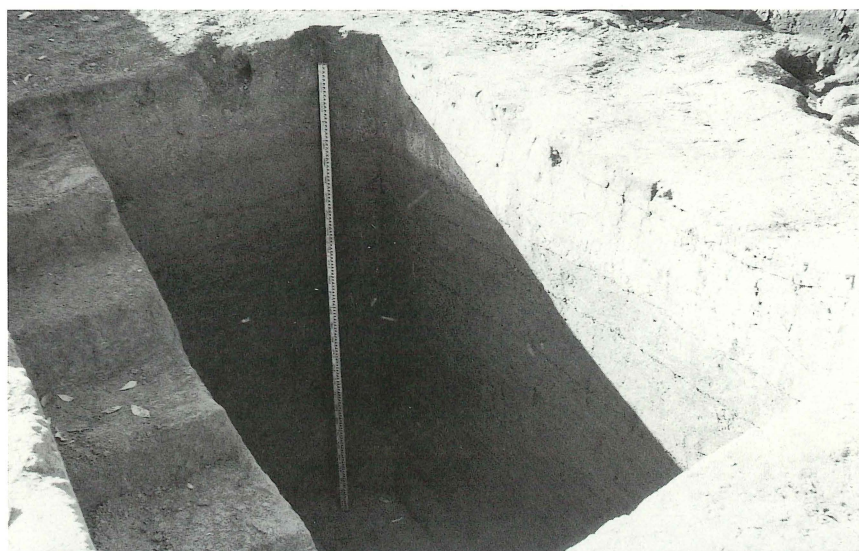


D調査区発掘風景（南西から）

基本層序 (D区東壁)

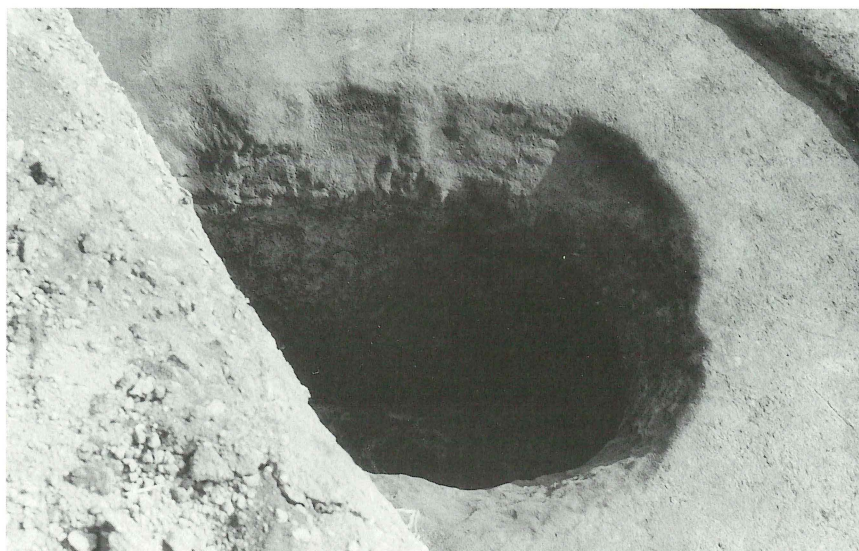


基本層序 (C区西隅)



重機による表土掘削





A区1号落とし穴
(西から)

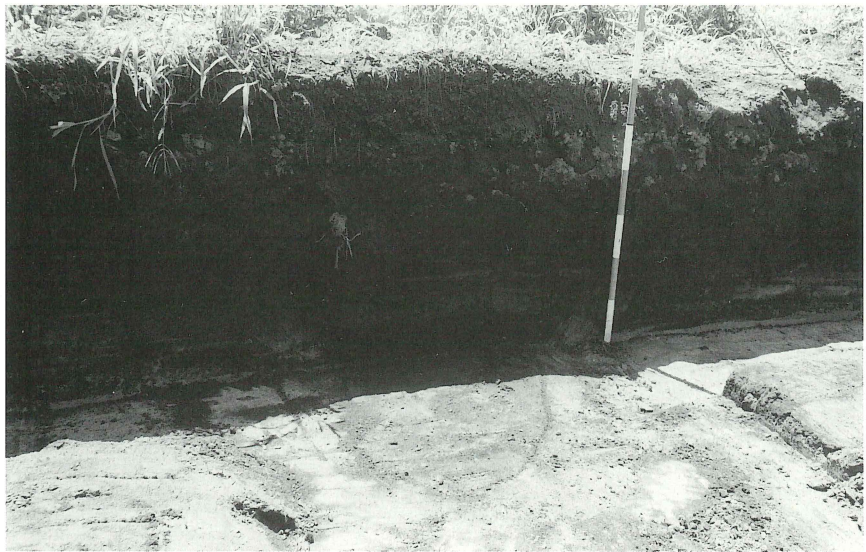


同 底部 (南から)

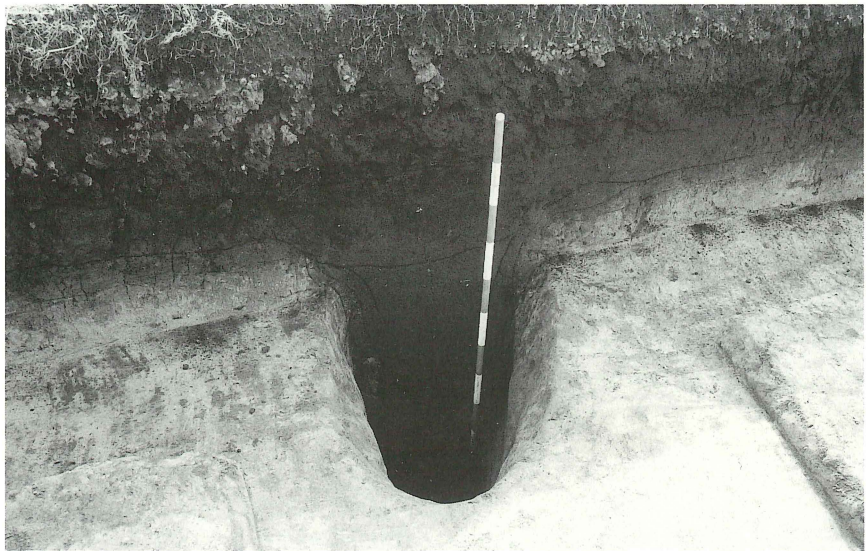


A区北壁
縄文土器出土状態

A区2号落とし穴確認状態



同 全景（北から）



同 全景（西から）





B区1号落とし穴
確認状態

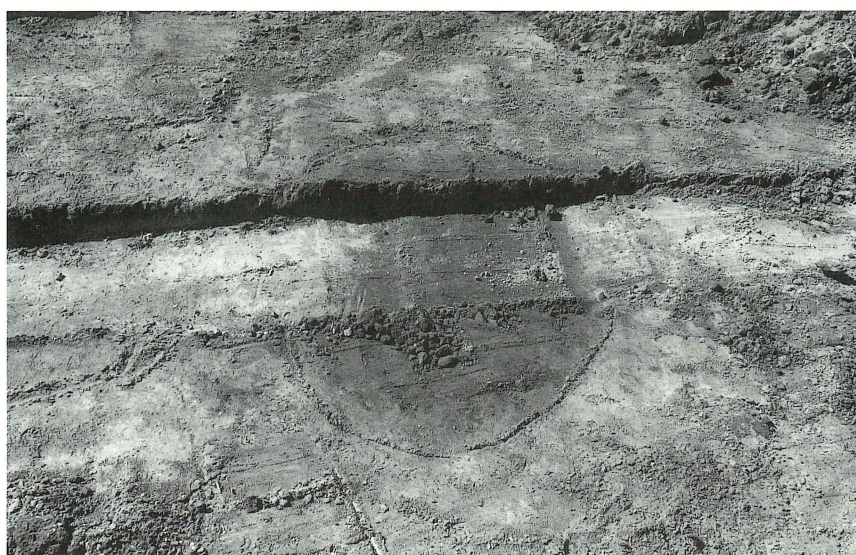


同 全景（西から）



同 全景（南から）

D区1号落とし穴確認状態



同 全景（南から）



同 底部（南から）





A区1号土坑
(北から)

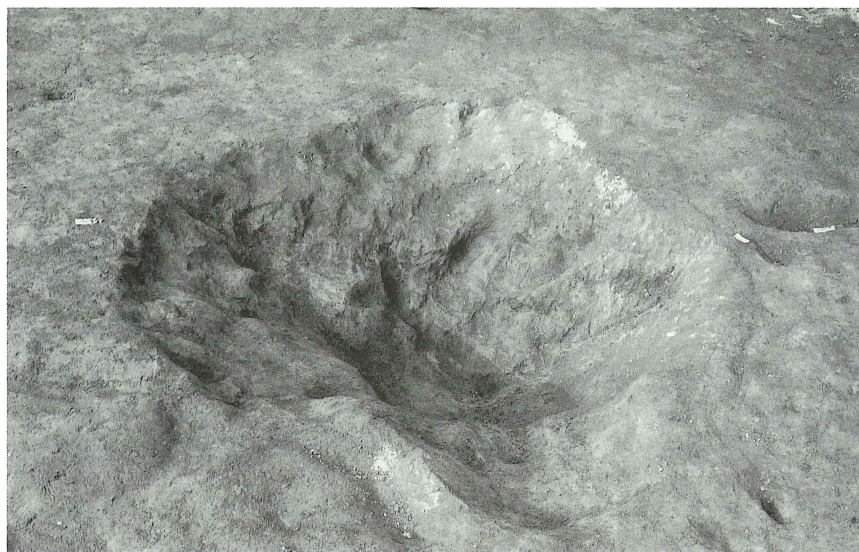


A区2号土坑
(東から)



調査風景

C区1号土坑
(南東から)

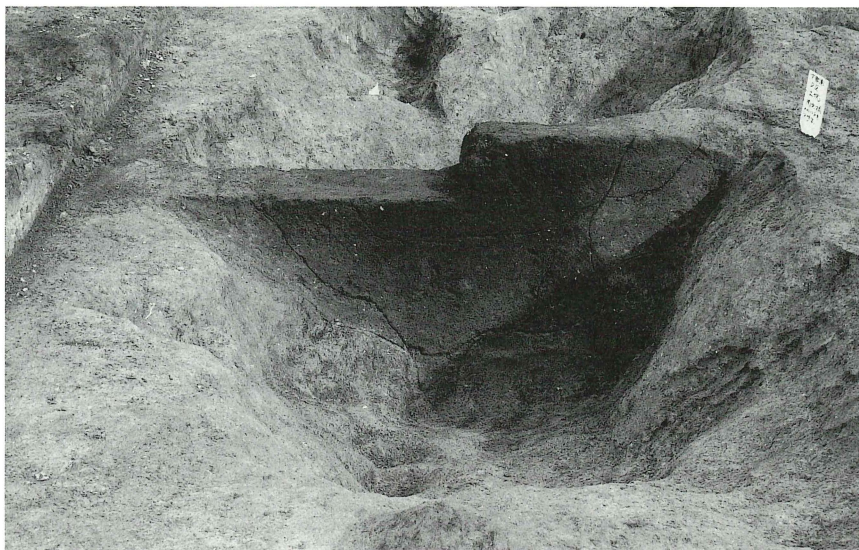


同 発掘風景



C区2号土坑
(南西から)





D区1号土坑 土層
(南西から)



同 全景 (南西から)

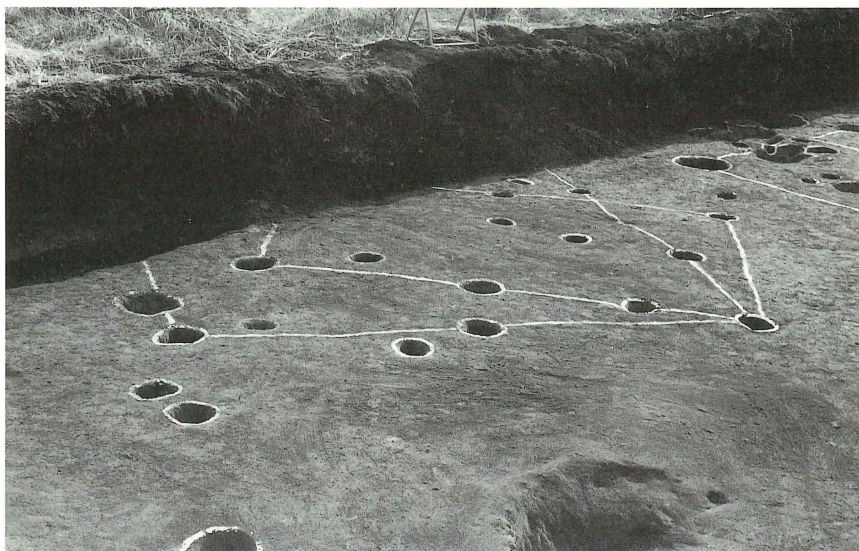


D区2号土坑 土層
(南東から)

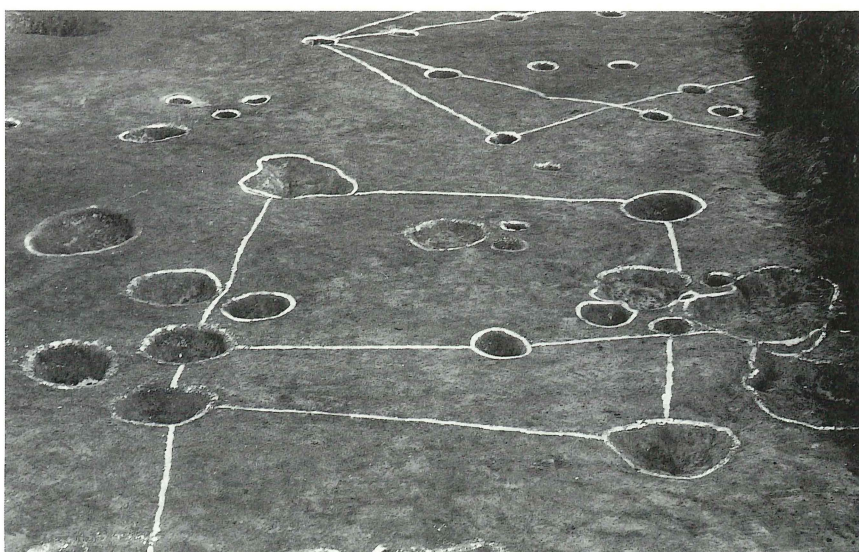
D区2号土坑 全景
(東から)



A区1・2号掘立柱建物跡

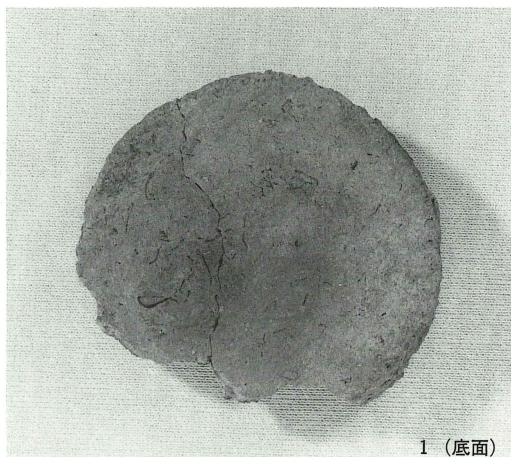


A区3・4号掘立柱建物跡





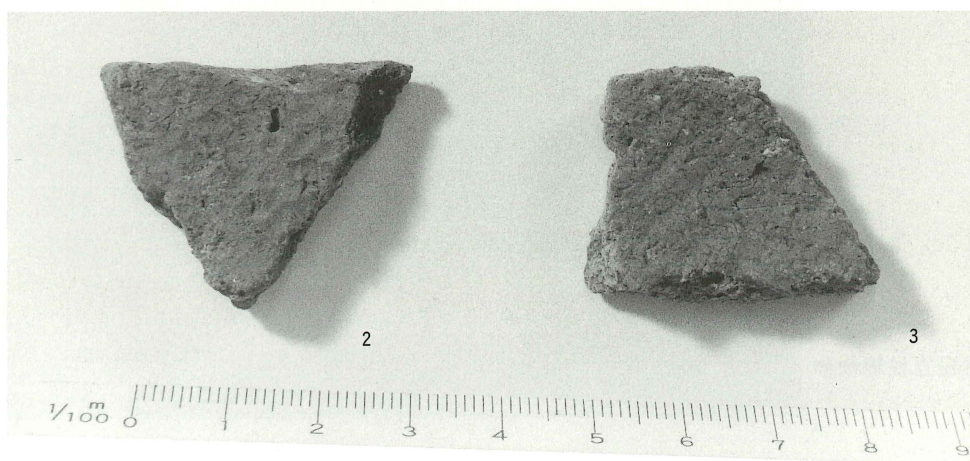
1



1 (底面)

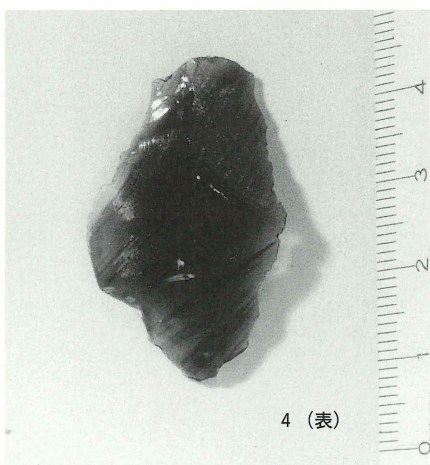


1 (内面)

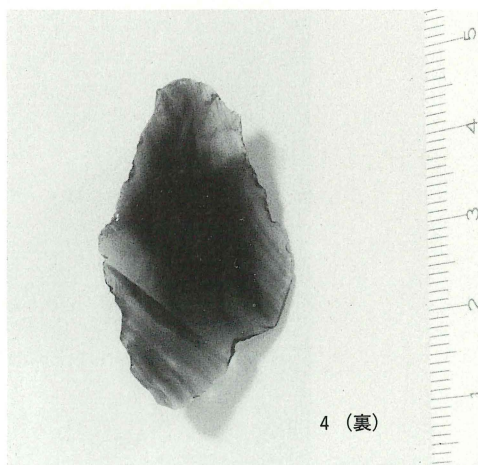


2

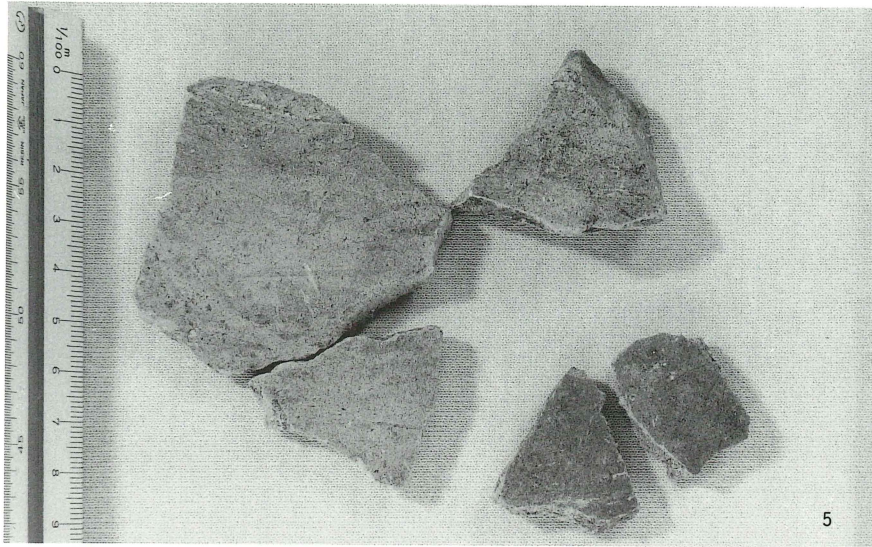
3



4 (表)



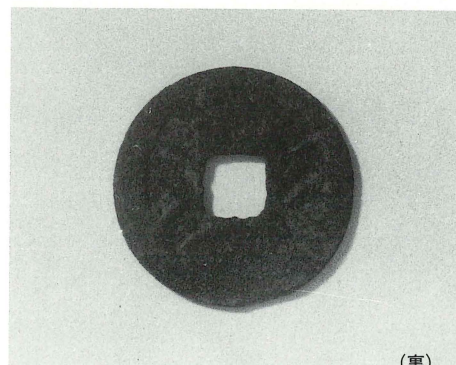
4 (裏)



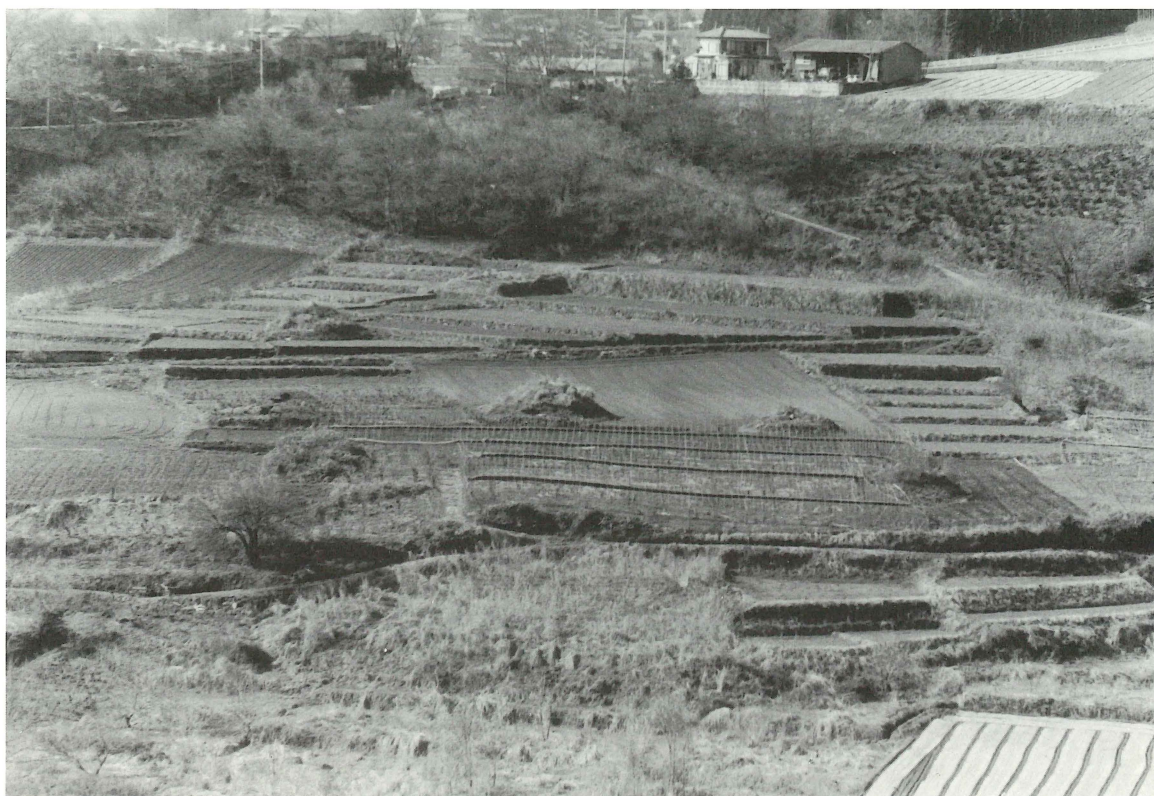
6. 昭和49年頃C調査区
付近の畑を耕作中に発
見した土師器甕
(小野清蔵氏提供)



文久永寶 (表)



(裏)



下宿浦遺跡から見た奈良古墳群（市史跡）



愛宕丘陵上の墳墓

下宿浦遺跡

地方特定道路整備事業市道桜ヶ丘横塚線道路
改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

平成8年3月25日 発行

編集 沼田市教育委員会社会教育課

発行 沼田市教育委員会

〒378 群馬県沼田市西倉内町780

TEL 0278 (23) 2111

印刷 有限会社コトブキ印刷



